

# ザレッドクロス みずうみ

日本赤十字社島根県支部 みずうみ赤十字奉仕団

## インドネシア青少年赤十字メンバー受け入れ事業を通じて

日本赤十字社島根県支部 事業推進課長 飯塚 三陽

みずうみ赤十字奉仕団の皆さまにおかれましては、平素から島根県支部が実施する赤十字活動に対し、多大なご支援、ご尽力を賜っておりますこと、この場をお借りし心からお礼申し上げます。

最近、小さな命が親の虐待で奪われるという痛ましいニュースを耳にすることが多く、子供を持つ親として、心が締め付けられる思いがいたします。利己心という病が人々のところを蝕んでいる現代だからこそ、赤十字活動を通じて「人道」の普及を拡大していく使命を強く感じています。

さて、日本赤十字社では、国内外の青少年赤十字メンバーが交流を深めることにより、「国際理解・親善」の促進を図るため、隔年でアジア・大洋州の国々と地域から青少年を日本へ招聘し本事業を実施しています。

島根県支部

では、青少年赤十字活動の一環として、昨年十一月十七日(土)から二十二日(木)までインドネシア青少年赤十字メ



ンバーの高校生二名を受け入れました。

滞在中はみずうみ赤十字奉仕団員との交流のほか、ホームステイ、青少年赤十字加盟校(島根県立松江東高校、出雲市立遥堤小学校)をはじめ、松江赤十字病院、島根県赤十字血液センター訪問ならびに、島根大学学生赤十字奉仕団との交流等を行いました。

特に、みずうみ赤十字奉仕団との交流事業は、「災害時高齢者生活支援講習」の受講や、浴衣を着てお茶席体験等の交流を図りました。

インドネシアの高校生たちは、日本の伝統的な文化が体験でき、大変喜んでいました。

また、テレビ局、新聞社の取材もあり、賑やかな交流会となりました。これも奉仕団の執行部の方々が何度も支部に足を運び、打ち合わせを重ねてこられた成果だと思っています。

私も、入社以来韓国やカンボジアの青少年赤十字交流等に携わってきました。

島根の子供たちは恥ずかしがり屋が多く、見知らぬ外国の子供たちと、どう接したら良いか分からず戸惑いながらも、交流を通じてだんだんと打ち解け、最後は涙を流しながら別れを惜しむ姿を何度も目にしました。

そのような場面でもいつも思い出すのは、以前赤十字の先輩に教えて頂いた「君は君、僕は僕、でも仲良く」という言葉です。

これは、日本赤十字社(本社)の元青少年課長橋本祐子さんがおっしゃった言葉で、国も言葉も人種も違うけれど、お互いを認め合い、相手を尊重する大切さを言い表しています。

遥堤小学校の大半の児童にとって、恐らくインドネシア人と会うのは初めてだったと思われますが、子どもたちは何のためらいもなく、けん玉や駒回しなど日本の伝統的な遊びをインドネシアの高校生と一緒に楽しんでいました。松江東高校生も、片言の英語で、インドネシア赤十字の防災すごろくで盛り上がる様子を見て、今回の事業を実施して良かったと実感しました。

私たち島根県支部が行う「国際理解・親善」は、小さな取り組みかもしれませんが、コツコツと地道に継続していくことで、「違いを認める」「他の人を尊重できる」そんな心が少しでも増えていけばうれしく思います。

終わりに、本事業にご支援をいただきました奉仕団員の皆様をはじめ、関係者の方々に心より感謝申し上げます。



## 災害時高齢者生活支援講習

十一月二十日(火) 参加十一名

赤十字救急法指導員豊田智恵子氏の講義で、参考書によつて知識を深め、実技の実演もしました。

災害に直面すると誰でも動揺するのは当然と思いますが、特に高齢者は心を受けるショックが大きかったり、避難所生活を余儀なくされるなど環境の変化に大きな影響を受けます。このような場合にボランティアとして知っておくべき「心得」「技術」などを学びました。ボランティア活動の参考としてだけではなく、自分自身が気をつけることとして大変有効な内容でした。教わった中で身体を自由に動かせない時の足の運動、身体を清潔にするためのホットタオル作り、緊張やストレスを和らげる為の二人でのリラクゼーション、風呂敷を使ったりユックサック作りなど時々思い出して復習しなければと思いました。

さて、この講習には国際交流事業で来県しているインドネシア青少年赤十字の男子高校生二名も

参加されました。通訳を交えながら真剣に受講し、

リラクゼーションの実技では団員の

の松本さん、青木さんの肩のなで

さすりをしてあげるといふほほえ

みずうみ赤十字奉仕団だより



ましい場面もありました。

又、文化交流として、団員の池田裕子さん、吉岡笙子さんのお点前でお抹茶を味わってもらい自らもお点前を経験してもらいました。十五才と十七才のお二人ですがとても好感の持てる青年達で、海外で赤十字活動に携わる若者に頼もしさを感じました。

(原田)

## 古布ふきんづくり

十一月二十日(火)二回目の古布ふきんづくりがありました。

古布は団員の持寄りが多いですが、今回は赤十字病院より、きれいにクリーングされた古シャツ等々沢山提供いただきました。団員の皆さんは慣れた手つきでハサミを動かしながら、和やかに話もはずみ団員同志の親睦にも繋がっている様に思えました。

今回、古布ふきんづくりのお世話役をさせてもらって思ったことですが、この活動は家庭に居る時にでも出来るということでした。古くなったTシャツ等で、暇な時に少しづつ作っておき、会合の度に持ち寄り出す。また、足腰が弱くなつて活動に出席出来なくなつた団員さんの中には、家庭でも奉仕活動が出来ると、喜んで古布ふきんを作つて下さる方々もあるかもしれません。地区委員に連絡下されば都合の良い時に集めます。

そうすれば、年間でもっと多くの古布ふ

さんが集まり、介護施設等で使つていただけると思ひました。

(團野)

## 児童福祉施設支援金

各地区委員さんが中心となり集めて頂きました支援金(十三万二千円)は、十二月十八日に日本赤十字社島根県支部へ執行部から贈呈いたしました。従来の「年末義援金」は今年度より「児童福祉施設支援金」と名称が変わりました。集められた支援金は県内の児童福祉施設に入所している子供たちのために役立てて頂こうと全額贈呈されます。この活動は二人一人ではなかなか行動に移せないのですが、団員の皆さま方のご協力により多額の支援金が集まりました。これから育ちゆく子供たちに少しでも役に立ち、すくすくと成長されるよう団員一同願っています。

また、年末恒例の「NHK歳末たすけあい・海外たすけあい救援金」のオープニングセレモニーが、十二月三日にNHK松江放送局で行われ

ました。み

ずうみ奉仕団

から松本淑子、

原田美智子団

員が出席し救

援金を託しま

した。

(青木)

## 児童福祉施設支援金 贈呈先

- 松江赤十字乳児院 ●双樹学院
- 安来学園 ●聖喤寮 ●児童心理
- 療育センターみらい ●わかたけ
- 学園 ●松江学園 ●さざなみ学園
- くるみ邑美園児童部 ●こくぶ
- 学園 ●仁万の里児童部 ●松江整
- 肢学園 ●島根整肢学園



## 「NHK歳末・海外たすけあいフェア」参加

十二月十六日(日)いきいきプラザ島根に於いて、年末恒例となった「NHK歳末・海外たすけあいフェア」が開催されました。

当日会場は、各種バフオーマンスやバザー、和菓子・野菜・陶器等の販売が行われ、多くの家族連れの方々等で賑わいました。

みずうみ赤十字奉仕団は、十三名の団員がバザー部門に参加しました。八時五十分集合、オリエンテーションの後、午前中は、提供いただいたバザー用品を種類・値段ごとに区分けし、各コーナーへ展示する作業を行いました。午後、時のバザー開始と同時に多くのお客さまが来場され、品定めしながら次々とお買上げいただき、山のようにあつた品物は徐々に少なくなつていきました。

バザーでの売上は、二十二万六千六百六十二円あり、フェアにおける収益は、日本赤十字では紛争犠牲者や、自然災害で苦しむ人々の支援等の「国際救援活動」に役立てられます。

団員のみならず、まにはバザー用品を多数ご提供いただき、ありがとうございました。ありがとうございました。

(池田)



## ちようちょキャンペーン

対人地雷廃絶を願って、みずうみでここ数年続けている「ちようちょキャンペーン」を今年度も行いました。また松徳学院高校の生徒さんにも協力いただき、三八四枚(うち松徳の生徒さん分は八九六枚)のちようちょを二月十四日リズムネットワーク事務局に送りしました。一九九九年三月一日、対人地雷全面禁止条約(オタワ条約)が締結されて今年でちょうど二十年になります。リズムネットワーク事務局からオタワ条約未参加の三十二ヶ国の大使館にこのちようちょが届けられます。私達一人ひとりの声がやがて「地雷なき世界」の実現に繋がることを信じています。

(松本)



## 松徳学院高校の生徒さんの感想文(二月六日)

感想文(二月六日)

みずうみ奉仕団の方のお話を聞いて、対人地雷は人を傷つけるためにつくられた兵器だということがよく分かりました。カンボジアでは、私たちの生活とは違ってとても貧しい生活をしています。ですが彼らも一生懸命生きています。そんな大切な命

を対人地雷によって失うということはあつてはいけないと思います。また地雷は人の手によって作られています。人の手で人の命を奪うことはこの世で最もあつてはならないことだと思います。このような考えを持っているのは僕だけではないと思います。人の心を動かしたり、人を変えるためには、まず自分自身が変わらなければならぬに変わらぬと思うので、僕もできることがあれば積極的に行きたいと思いました。

(T・A男子)

対人地雷はとっても怖いなと思いました。日本は戦争とか、こういう怖いことがないけれど、よその国では地雷などの恐怖で日々すごしていると思うと、私たちが住んでいる日本は平和だなと思いました。地雷で親が負傷した子どもや、勉強ができない子どもがいると知って、何かしてあげたいなと思いました。自分で、何かできることがないかなと思いました。

そのためにみんなでちようちょに「オタワ条約に参加して下さい」と書いて対人地雷廃絶を訴えました。未だに怖い国がたくさんあるので全部の国が平和で楽しくすごせるような世界になつたらいいなと思います。考えさせられる授業だなと思いました。ありがとうございました。

(A・B女子)



## こんにちは(団員の近況報告)

### 『私は今』

鐘築サカエ

他県より嫁ぎ来て、早や四十余年。仕事をもち、三人の子を育て巣立ち終えました。子育て中の三十代の時、まだ介護保険も紙オムツもない時代に夫の老親を自宅介護。その後の仏事。若かった勢いで一生懸命でした。今、父、母、兄の年を越えて生かされ七十年代に。そんな昨年思いもよらぬ手術。三回の入院。この年まで元気だけが取得で、富士山、穂高、乗鞍岳等に山登りもしました。しかし、今、心身共に自信がもてなくなり、立ち止まって思う事は二日には終りがある。一月にも。一年にも。また一生にも終りがあるという事です。いつの日かわからぬその時まで、今を一生懸命生きる事。もう無理は出来ないという気がされ、一日一日を楽しく過ごすよう、臆病にならず前向きに。朝、目覚めるとほっとします。感謝です。夕にも感謝です。生かされている事に目に見えぬ大いなるものに感謝しかありません。ボランティアをして、されて想うことは人とつながる楽しさ。たつたひとつのやさしい言葉に、またやさしい笑顔に嬉しくなります。していたいた時も、させていただいた時も、心がほっとあたたかくなります。これから、出来る事を、出来る時にさせていただきたいと思っています。

### こんにちは

中脇恭子

こんにちは！長い間みずうみ奉仕団としての活動を失礼しており申し訳なく思っております。新しい年を迎えましたが、昨年は大変災害の多い年でございました。幸いにも私

達は被害を受けませんでした。被災地の悲惨な被害状況を目のあたりにし、少しでもお手伝いをお願い、弊社開催のゴルフコンペ参加者の皆様に西日本豪雨の義援金を募り、赤十字社に、届けさせて頂きました。

また、他のボランティア団体より献血運動にも参加致しました。市民の皆様、高校生から中年の方々に積極的に献血頂き感激致しました。

先日、松江赤十字病院長大居先生より講話を頂きました。

一九一九年赤十字社連盟の設立。赤十字社の七つの基本原則は人道、公平、中立、独立、奉仕、単一、世界性。

現在の日本赤十字社の理念は「わたしたちは、苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守ります」

現在の私は自己中心的、且つ何の不自由もなく飽食暖衣の時代に生きており、反省する事頻ります。すべての人々に感謝しながら生きていきたいと思っております。今年こそは、災害のないよい年でありますように願っております。

### 「楽しい友人」

浜田光代

貴女は何を基準に友達を選びますか？と、問われたら、若い時は楽しい人、センスの良い人、趣味が同じ、今で言うママ友、と答えたでしょう。

今、この年令では、唯一の問題として楽しい人と答えます。

では何が楽しいか、結局決め手は「会話」だと気づく。

楽しく会話が出来るとは、必ずしも笑いのこぼる楽しいとは限らず、笑える話もちろんな楽しいが、しみじみと人生のあれやこれやと考えさせられる会話も又楽しいものである。

やるせない怒り、社会問題に対するその人の考え等、節度を保ちながら、友人関係が続いていると思う。

今、私は楽しい会話で盛り上げる友人に恵まれ、残り少ない人生を過しています。

### 銭太鼓と私

三谷幸子

郷土芸能のつに安来節銭太鼓があります。安来節は百数年の歴史をほこる民謡でとても難しい曲です。唄あり三味あり鼓・太鼓・どじょう揃い踊りの分野がありますが、その内のつに銭太鼓があります。三十cm位の竹の筒の内に銭が入り両端にふさがあつて床をたたきはじき、くるくる廻して祝の席等で賑やかに舞う仕草をし銭が鳴り響きますのでとても楽しく喜んでいただけます。

私は子育てが終つてから何か世の人の為に喜んでいただけるものはないのかなあと思ひこれに挑戦致しました。流派は色々ございますが竹内流を習い始め奥が深いので日々勉強です。

松江市を代表し中国の姉妹都市等に出向き交流した時は格別でした。サンフランシスコヨーロッパで披露した時は私の様な無器用な者でも一生懸命見て下さり「あー、やつていて良かった」と感動しました。

又、次の世代に継ぐ段階で文化庁の元で子供銭太鼓教室を開き、四才から中三までの子供達が熱心に学んでくれた時は涙が出る程嬉しかったです。「ハイキタサー」のかけ声、可愛かったです。

今はあちこちの施設から声がかかり踊り唄・銭太鼓を披露し、お年寄さんが昔のことを思い出したりして喜んで下さることが一番嬉しいです。一時でも喜んで下さると「あー、やつていて良かった」と思う毎日です。

これからも体力の続くかぎり勉強し世の人の為に尽くすことをやろうと日々考えております。ありがとうございます。



## 「感謝」

溝口さち子

この四月末をもって、主人が知事の職を辞することになりました。

そろそろ身辺整理をと思い、写真をながめながら今までの十二年を思い起こしております。その写真のほとんどが様々なボランティアグループで一緒させていただいた方々とのものです。みなさんとても活動的で、真面目に取り組んでおられ、感心させられることばかりでした。退職後、あるいは孫育てが終わった後どう過ごすかはシニア世代の関心事ですが、そのお手本を見せて頂いた気がします。

ボランティア経験が少なく、引込み思案の私はなかなかはじめず、苦勞しましたが、やっていくうちに慣れていきました。中でもみずうみ奉仕団の、赤十字デーの募金活動は勇気がいりました。足早に通り過ぎる人達に「ご協力よろしく願います」と小さな声で、でも回を重ねるごとに大きな声が出るようになります。何か行動をするにはどうすればよいか。自分を奮い立たせ、自分で自分の背中をおすことをこの年になって、ようやく学ぶことができました。貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。



## 「私は今・・・」

大和友子

皆さん、こんにちは。お変わりなくお過ごしでしょうか？

近況報告をというご依頼をいただきました。この頃は、腰痛が少しでも楽になるようにと週に三回は身体を動かしています。そのうち二回は、昨年の四月より友人に誘われてグランドゴルフを始めました。最初はどうかと思ったのですがやってみると意外に楽しく、下手なのでワーワーキヤキヤと言いつつやっています。ストレス発散にもいいようです。それと、一向に上達しない俳句を細々と続けています。

「御代替はるあら玉の年明けにけり」

「二人して物忘れする老の春」

お粗末でした。

## 楽しみのとき

山内祐子

今冬は、とても過し易い暖冬であった。私のささやかな趣味は草花づくりと土いじりである。

家の前に置いているプランターや鉢に土を入れることから始める。土作りは堆肥・石灰・腐葉土・園芸用の土等を混ぜ合わせる。それをプランター、鉢に入れていく。

買って来た球根、花苗を土に植え込む。時々水やりをしたり草抜きをしたりの世話をする。



そのうち草花や球根が大きくなりかわいらしい花芽がついてくる。毎朝少しずつ変わっていく草花をみるのが楽しみであり喜びのひとときである。

## 新年にあたって

吉岡肇子

平成最後の三十一年の年があげました。

昨年を振り返って見ますと、その年を二文字で表す漢字に「災」が選ばれましたが二年を通していろいろな所で災害が起きました。今年は四月に天皇陛下が退位され新しい元号の年になります。日本はどういう歩みになるでしょうか。

又、みずうみの活動については皆さんの力でボランティア活動等いろいろされていて敬意を表します。

私にとって今年はどういう年になるかと思いをはせるとみずうみの活動を地道にさせてもらいたいと思っております。

又、私が関わっている茶道の関係ではこの秋、菅田庵の修復工事が終り、いろいろな行事に参加する事になりそうです。体調管理をして頑張っていきたいと思えます。



菅田庵

## 「忘れない三・一一」

## 東日本大震災街頭募金

三月十一日(月)、イオン菅田店で団員四名が「島根大学学生赤十字奉仕団 ぷらす」と共に、災害の記憶を忘れないよう、少しでも力になりたいと強く呼びかけました。募金額合計七万五千四百七十七円は、日本赤十字社を通して被災地に設置されている義援金配分委員会へ送られ、被災者のもとに届けられます。



## 病院交流会

三月二十日(水)、第十五回病院ボランティア交流会が開催されました。参加者八名と病院スタッフの四名で赤十字病院の見晴らしの良い十三階で大居院長先生を囲んでお茶を飲みながら和やかに日頃の活動の感想等話し合いました。はじめにボランティア六百時間を達成された吉岡信子さんの表彰もありました。おめでとうございます。



## 平成 30 年度下半期事業報告

1. 松徳学院高校生とのふれあい交流会 (第 1 回)  
10 月 10 日 松徳学院高校調理室  
参加 団員 8 名 生徒 32 名  
ハイゼックスによる非常食づくり
2. 災害時高齢者生活支援講習・  
インドネシア高校生との文化交流会  
古布ふきんづくり  
11 月 20 日 日本赤十字社島根県支部  
参加 11 名
3. NHK 歳末・海外助け合いフェア  
開始式 12 月 3 日 NHK 松江支局 参加 2 名  
バザー 12 月 16 日 いきいきプラザしまね  
参加 13 名
4. 児童福祉施設支援金贈呈  
12 月 18 日 日本赤十字社島根県支部 参加 4 名
5. ちょうちょキャンペーン  
12 月～2 月
6. 松徳学院高校生とのふれあい交流会 (第 2 回)  
2 月 6 日 松徳学院高校  
参加 団員 6 名 生徒 28 名  
ちょうちょキャンペーンの説明、ちょうちょづくり指導
7. 東日本大震災義援金募金活動  
3 月 11 日 イオン菅田店 参加 4 名
8. 病院ボランティアメンバー交流会  
3 月 20 日 松江赤十字病院 参加 8 名

## 年 間 事 業

1. 松江赤十字病院ボランティア
2. 松江赤十字乳児院ボランティア
3. 高齢者施設訪問 (古布ふきん持参)
4. 赤十字社会員加入・会費募集
5. 特別支援金、救援金贈呈
6. 情報誌「レッドクロスみずうみ」刊行
7. 役員会 (3 回)

## あとがき

十二月末に発表される「今年の漢字」に「災」が選ばれました。地震・豪雨など自然災害が頻発し、近隣では西日本豪雨や島根県西部地震が相次いだ年でした。今なお避難生活をされている被災者のかたが一日も早く元の生活に戻られますようお祈りしています。八月には山口県でスーパーボランティアと言われる尾畠さんの幼児保護というニュースを聞き、経験豊富な行動力と相手への思いやりの心に感銘を受けました。

さて、レッドクロス発行にあたり団員の皆様に「近況報告」をお願いしましたところ沢山の方から原稿をお寄せいただきありがとうございます。皆様のお声をこの情報誌でお伝えできることを大変嬉しく思います。今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

(松本)

ザレッドクロス みずうみ 第四十六号  
平成三十一年三月三十一日発行  
発行者 松江市内中原町四十番地  
日本赤十字社島根県支部内  
みずうみ赤十字奉仕団

編集委員

委員長 大塚 良子  
委員 松本 淑子・梶 啓子  
原田美智子・池田 裕子  
小林 七彩

印刷所

株式会社報 光 社  
☎(〇八五三)六三三・三九三九